

女性のまごころとからだを知る

女性外来って何でしょう？

シリーズ1

対馬 ルリ子(産婦人科医師)

「女性外来」あるいは「女性専用外来」という言葉を聞いたことがありませんか？女性外来とは、女性によくおきる体の症状やこのころの問題、どこに行ったらいいのかわからない体調不良、不安や疑問などに答える健康問題の窓口として、病院やクリニックにもうけられた外来です。

女性は、思春期、成熟期、更年期、老年期と、そのホルモン状態によって、また、結婚や育児などのライフステージによって、男性とは異なった心身の変化をします。それにもなつて、健康問題も、月経不順や月経痛、頭痛、動悸やめまいや不眠、うつやイライラ、乳房痛や下腹痛、摂食障害など、病気じゃないかもしれないけれどもつらいといった、心とからだの全体的な失調をおこしやすいといえます。しかし、

このような女性の心とからだの特徴、月経や閉経などのホルモンの状態、日常生活や、仕事やいきがいななど個人としてありかたを配慮することなく、臓器別に、男女均一の診療をしてきたのがこれまでの医療でした。

女性医療に関する、これまでの医療の問題点と、これからの方向性についてお話してみたいと思います。

1. ビキニ医療から総合医療へ

第二次大戦後、女性の社会進出と少産少子化によって、ライフスタイルがすっかり変わった女性の健康問題は、産婦人科などの従来のビキニ医療(ビキニの水着でかくす部分の医療)ではカバーしきれなくなってきました。昔の女性は、おとな

になると早く結婚し、子どもをたくさん産んで育て、育て終わると寿命がやってきました。子どもが少なく、職業をもち、世界一長寿になった日本の女性の健康問題は、いまや妊娠出産の問題よりも、ストレスや月経の問題、更年期などの老化にもなうもの、子宮内膜症などの婦人科の病気や乳がん、食行動や性行動のかたよりによっておこる拒食・過食や性感染症など、昔はあまりなかった新しい病気が増えてきています。

これらは、生命には関わらずともQOL(生活の質)を落とし、女性を苦しめて自信を失わせています。新しい女性のライフスタイルや特性を考慮した医療が望まれています。

2. 医師・患者の

上下関係からチーム医療へ

これまで、医師と患者には上下関係がありました。偉い人が命令し、管理し、指導することに、人々は従わなくてはならないという意識がありました。しか

し、現在では、ひとりひとりが主役の、健康意識や患者意識がうまれていきますし、患者さんを主役にしたチーム医療になっていくと思っています。各診療科の医師も、看護師や薬剤師も、心理カウンセラーも、ひとりの女性のためにみんなが力を合わせて診療をしていくようになってきています。

3. 短時間診療から

ゆつくり診療へ

これまででは、受診者が多すぎするため、医師は患者さんのお話をゆつくり聞いてはもらえませんでしたし、説明にも時間をかけられませんでした。必要最低限のことだけを聞いて、病気の診断と治療をし、病気と治療以外の部分、つまり患者さんの気持ちや生活全般のこと、これからの人生などに思いを寄せられませんでした。しかし、女性外来をはじめとして、じっくり話を聞き、ひとつの症状、ひとつの臓器の病気だけを診るのではなく、ひとりの人間とし